

公益社団法人
岡山青年会議所広報誌

暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951



DANRYU since 1975 Anniversary 50th

2026年度 76代理事長予定者紹介



公益社団法人岡山青年会議所
2026年度 第76代 理事長予定者

株式会社オオキタ・コーポレーション
専務取締役

大北 大士郎
Daishirou Ohkita

【学歴】
2006年 3月 岡山東商業高等学校 卒業
2010年 3月 阪南大学 卒業

【職歴】
2016年 6月 株式会社オオキタ・コーポレーション 入社
2020年10月 同社 専務取締役 就任
現在に至る

【JC歴】

〔岡山青年会議所〕		
2018年	後期入会 会員研修委員会	委員
2019年	岡山JCブランディング委員会	委員
2020年	総務委員会	幹事
2021年	まちづくり委員会	副委員長
2022年	地域道徳向上委員会 理事長チーフセクレタリー	副委員長
2023年	地域連携強化委員会	委員長
2024年	総務室 財政規則審査会議	常任理事 幹事
2025年	ひとづくり室	副理事長

〔日本青年会議所〕
中国地区協議会 総務・広報・渉外委員会 委員
中国地区岡山ブロック協議会 総括幹事
中国地区岡山ブロック協議会 副会長



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook



Instagram



岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。
お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索

暖流
公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

次号は令和7年12月発行予定です。

発行日 令和7年10月
発行 公益社団法人岡山青年会議所
〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階
TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email info@jci-okayama.com
発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所
会員拡大広報委員会
委員長：木村勝也
大田武勇・山崎洋介・大田原基敬・黒田勇人・増田亮治・山崎皓平・青山あゆみ

特別対談

もう一つの身体が、 もう一つの居場所を作る 障がいと向き合うのではなく、関係をつくる

利他ではなく「共創」という選択。同じ旗のもとで、役割を持ち寄る。

遠くのあなたと「ここ」で会う 『人に会う』ってこういうこと。

OriHime（オリヒメ）は、重い障がいがあっても遠隔で“お出かけ”や就労ができる分身ロボット。
この日、私たちを接客してくれたのは
OriHimeパイロット歴5年のマサヒロさん
日本橋の「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」だけでなく、
モスバーガー原宿表参道や
EXPO2025 大阪・関西万博の現場でも働くベテランです。

福岡在住のマサヒロさんが
卓上の OriHime 越しに挨拶をしてくれて、
まずはメニューを一緒に相談。
オーダー後も近況トークで盛り上がり、待ち時間も楽しい。
ドリンクはパイロット“ぼったん”が操縦する
移動可能なOriHime-Dがテーブルへ。
すれ違うときにロボット同士が一言交わす様子を、
ちょっと未来を感じる。
店内には曜日限定の“テレバリスタ”もいて、
本格的な一杯を淹れてくれる。

これは機械ではなく“人に会う”体験。
離れていても、人は人に会いに行ける。

◀その理由を、次ページで深掘りします。

01

オーダーを受ける
OriHime。
OriHimeパイロットと
コミュニケーションが
とれる。



02

OriHimeパイロットと
コミュニケーションを取りながら、
大きなロボット(NEXTAGE®)が
コーヒーをいれるところを
間近で見ることができる。
NEXTAGEはカワダロボティクス登録商標です。



03

注文された飲み物を
運んできた
OriHime-D。
動きもかわいい。



暖流発行にあたり

公益社団法人岡山青年会議所の広報誌「暖流」をご覧いただきありがとうございます。

岡山青年会議所は、本年創立75周年という大きな節目を迎え、記念式典を盛大に開催することができました。改めまして、長きにわたり岡山青年会議所の歩みを築き導いてくださった歴代先輩諸氏の皆様、そして日頃より温かいご支援を賜っております関係各位の皆様へ心より御礼申し上げます。時代は移り変わり、課題は複雑さを増しています。しかし、未来を担う青年として地域と向き合い、希望を紡いでいく使命は、これまでも、これからも変わることはありません。創立75周年を単なる通過点とせず、新たな出発点として、未来に向けた一歩を確かに踏み出していきたいと思います。

私たちは、地域の皆様と共に、このまちの未来を創っていきたいと考えています。地域の課題に向き合い、子供たちや若者の可能性を広げ、笑顔あふれるまちを目指す—その思いを活動を通してお伝えし、皆様の声を力に変えてまいります。この「暖流」も、特別会員の皆様と現役メンバーをつなぎ、地域の皆様に岡山青年会議所の想いを届ける架け橋でありたいと考えております。今後とも、私たちの歩みに変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所
2025年度 第75代理事長

妹尾愛希

妹尾 まず、体験の感想から。ロボット越しなのに、ちゃんと（人に会った）感じがしました。あの距離感、すごいですね。

オリイ ありがとうございます。実は青年会議所さんにはご縁があって、ちょうど13年前の9月に日本青年会議所の「人間力大賞」をいただきました。あの時はお世話になりました。

妹尾 それは心強いつながりですね。私は今年、岡山青年会議所の理事長を務めています。私の娘が脳性麻痺で、一年を通して、ハンディキャップがある方々への理解を深める事業を展開しています。OriHimeに関心を持つ方も多いと思います。開発のきっかけはいつ頃ですか？

オリイ 2010年に作ったロボットなのでもう15歳になります。原点は『孤独』でした。小中学校時代に病気により3年半の不登校・引きこもりを経験して、自己肯定感がほぼゼロでした。友達もほとんどいなかった。それを解消したくて高校へ進み、ものづくりを徹底的に叩き込まれ、車いすの開発で世界3位の賞をいただきました。ようやく少し自信が戻ってきた頃、「孤独はどうやってら解消できるのか」を人生の研究テーマにしよう、と決めました。生きることがつらかったと言ったら少し言い方が悪いですが、本当になぜ生きているんだろうかということの本気で悩んでいた。医師からは「30歳で失明するかもしれない」と言われ、残り時間を逆算する感覚もありました。当時は「人間関係は苦手だから、人間は無理。AIと

か自分が働きたい場所を、今のうちに作っておきたい。それが私のモチベーションです。利他というより「自分事」。将来、寝たきりの自分が地獄のような孤独を感じないように―その研究テーマに、寝たきりの先輩たちが時間と人生の一部を差し出して協力してくれている。むしろ私が夢を応援してもらっている立場なんです。だからこそ、意見もストレートに上がってくる。

妹尾 僕も子供に障がいがあるので、そうしたコミュニティに触れる機会が多いのですが、皆さん本当に素直で朗らか。やる気にも満ちていますね。

オリイ エネルギーマのぶつけ先があるのが大事なんです。実験カフェの頃、開催週はみんな高揚するのに、次の開催までの数日間、不安定になることがあった。「昼に頑張るから夜よく眠れる」ように、人は仕事やミッションに力を向けられると健康になる。私はそれを「適材適所社会」、最近では「適人適社会」とも言っています。仕組みやAIが行きわたるほど、生きがいへのアクセスに格差が生まれる。だからテクノロジーで「人生をぶつけられる先」をしっかり作っていくことが、孤独の解消につながると思っています。

妹尾 今後の展開としては、カフェや設置先を増やしていくお考えですか？

オリイ それですが、もっと「リレーショナル・ワーク」を増やしたい。たとえばカメラマンやライターの仕事も、「安い・早い」より「〇〇さんをお願いしたい」でしょう。体調を崩しても、関係性が

関係性が価値になる時代 ―― 分身ロボットが拓く「寝たきりの先」

話していれば孤独は解消されるのでは」と思い、人工知能の研究をしていましたが、違うと感じた。このままでは人工知能としか話せなくなると。『人と人をつなぐ装置』コミュニケーションの福祉機器を作ろう』と、発想を変えたんです。私は視力が悪くて、眼鏡やコンタクトがなければ「視覚障がい」だったはず。だったら「コミュニケーション能力」も補えるはずだ、と。これがOriHimeの出発点です。

妹尾 孤独の研究がやがてビジネスや社会の仕組みとして広がっていったわけですが、その転機はどこにあったのでしょうか？

オリイ 20代の私は「他人に説明しても伝わらないなら、自分でやる」という方針でした。でも、自分がいなくなったあとに仕組みを残すにはどうするか。そこで、ロンドン大学で経営を学んでいた仲間と2012年に会社を設立しました。特許取得や製品化、寝たきりの方の雇用など小さく進めていましたが、分身ロボットカフェの構想を実現する過程で完全に一人で回せる範囲を超えました。その時、仲間が仕事を休んでまで助けに来てくれたんです。この出来事で、0→1は一人でできても、社会実装はチームでしか進まないと感じました。それ以来、自分は0→1に集中し、1→100は任せる体制に移行しています。日本財団さんの1階で内装に600万円かけて10日間だけの店を作りました。翌年はスポンサーもついて、実験を重ね、2021年に常設



店としてオープンしました。そこからも試行錯誤の連続で、2年後に黒字化。デンマークでも半年間の実験店をやりました。OriHimeパイロットは体が不自由だし、飛行機に乗ることもないからと英語を使わない人生を生きてきた人たちです。でも「お客様を笑顔にする」というミッションのもとで英語を学んでくれました。ここで大事なことは、障がい者のためではなく、将来自分たちも寝たきりになるかもしれないんです。考えたくないけれど、いつかそうなる。でもその後のキャリアを誰も考えていない。それを本気で考えることができるのが我々だと思います。寝たきりの先に行こう、障がい者が働くためじゃなくて、働かせてもらっているとかじゃなくて、いつかそうなる後輩のための道を作ろうというミッションのもとで旗を掲げました。大切なのは、ここが「障がいのある人のためのカフェ」ではないという共通認識です。「してあげる、してもらう」関係にしてしまうと、チームではなくなる。私たちの旗は『孤独の解消』。誰もがいつか移動困難になる。その先の生き方を、研究としてつくる。東大や慶應の先生方とも連携して心理や行動のエビデンスを取り、働く人たちの記録を次世代の道しるべとして残しています。来店されたお客様はLINE登録で「見習い研究員」になり、研究員になればバスガイド実験やOriHimeサッカーに参加もできます。「世界初の失敗こそ価値」というコミュニケーションです。

仕事を支える。泥臭いかもしれないけれど、青年会議所さんの世界も同じで、誰かの会社が大変なとき、「合理性を越えて支える」場面があると思うんです。それが人間の力であり、AI時代に私たちが選ぶべき価値だと思うんです。

妹尾 この先、どんなことを形にしていきたいですか？

オリイ たくさんあります。我々は出会う生き物なんです。人は出会いで変わる。運の正体は縁だと思う。同じ車両に何百人乗っていても、出会えずにすれ違っている。もったいないですよね。テクノロジーで、出会いを設計する「リレーションテック」を進めたい。コンソーシアム型で挑戦していきます。

妹尾 岡山店、私、営業担当やりますよ。

オリイ（笑）ぜひ。実は「スナック・OriHime」みたいな小さな箱も試したいんです。寝たきりの店長や「マ」がいてもいい。これも「寝たきりの先」の一つの形だと思います。

妹尾 すごく共感します。岡山青年会議所でも、「普通でいい」を合言葉に、まず手を差しのべられる社会を広げてきました。子供に障がいがある、僕にできることを考えてきたからこそ、支援学校の生徒たちに「新しい働き方」の選択肢をつなぎたい。岡山から変えていきます。

オリイ まさに今、特別支援学校の生徒さんのインターンも始めています。英語の練習や店頭サポート、OriHimeサッカーなど、まずは居場所づくりから。岡山でも、ぜひ一緒に。

妹尾 今日見えていても、皆さんが本当にいきいき働いている。地方の僕らにとっても「こういう働き方がある」と示す力が大きいんです。広がっていきたいですね。

オリイ ありがとうございます。利他のつもりが、当事者の「重さ」になることもある。以前、ALSの方に記事を書いてもらい、月5000円のプログ支援を試したら、「自分のためにお金を出させている重みで続きませんでした。人は「自分のため」より「誰かのため」に力を使いたい生き物なんです。だから私たちは利他ではなく『共創』。同じ旗のもと、それぞれの役割を持ち寄り。やっぱり自分のためにみんながやってってくれるって結構重みじゃないですか。そこは多分皆さんのように社長だったりとか、政治家だったり、「俺を担げ」って言えるような、すごく覚悟と責任感のある人ばかりではないわけです。助けが必要であることと、助けられたいことは違う。誰かのため、何のために繋がり、説得力があること、それがチームを組む上で大事だと思っています。そして一番考えているのは、「人が必要とされるのは、どんな時か」です。配膳はロボット、計算はAIがやれる時代に、人間の仕事って何だろう？分身ロボットカフェは、「生身の体」すら使わない環境で、「〇〇さんに接客してもらって嬉しかった」と思ってもらえる関係性をつくる場なんです。私自身、体調を崩すことも多いので、もし今日ここに来られなければ、OriHimeの姿で取材を受けていたはずなんです。いつ

我々は出会う生き物である。人と人をつなぐ力が、テクノロジーを動かす。

誰もが生きがいを見つけられる未来を

吉藤 オリイ Ory Yoshifuji

奈良県葛城市出身。小学5年から中学3年まで不登校を経験。高校時代に電動車椅子の新機構を発明し、世界最大の科学コンテストで入賞。その経験から「孤独の解消」を使命に掲げ、分身ロボットOriHimeや意思伝達装置OriHime eye+switchなどを開発。株式会社オリイ研究所所長。2012年日本青年会議所「人間力大賞」総務大臣奨励賞・衆議院議長奨励賞受賞。2021年グッドデザイン大賞受賞。

妹尾 愛希 Yoshiki Senoo

昭和60年生まれ。平成20年大阪産業大学卒業後、備前信用金庫入庫。平成23年に飛鳥グループ協同組合入社後、令和6年同社理事に就任。公益社団法人岡山青年会議所には平成30年に入会し、令和3年にボジティブインパクト共創委員会（委員長）、令和4年に例会委員会（委員長）、日本青年会議所中国地区岡山ブロック協議会拡大ブランディング会議（議長）、令和5年ひとづくり室（常任理事）、令和6年連携室（副理事長）を歴任。

防災フェスタ

災害への備えや対応についての知識を学ぶとともに、岡山の魅力ある資源を多くの方に知っていただくことを目的として開催しました。会場では、VRフライトシミュレーターや起震車の体験コーナーをはじめ、万博での公開が予定されていた“空飛ぶクルマ”の展示も行われ、多くの来場者でにぎわいました。未来のテクノロジーと地域の力が交わることで生まれる新たな可能性を感じる機会となりました。



2024



ハイ部リッド
～学校と地域の連携～

未来シティOKAYAMA

「未来シティOKAYAMA」では、マインクラフトを通じて子供たちが自由な発想で“岡山の未来のまち”を創造しました。コンテストには想像を超えるほどの力作が集まり、子供たちの柔軟な発想力と表現力に大人たちが驚かされました。次代を担う子供たちの可能性と、岡山の未来への希望を感じることができました。これからも子供たちと地域の未来を描き、実現に向けて歩んでまいります。



2023



米米ファーム2023

未来へと繋がるこども塾



岡山の空を照らす 大花火連携プロジェクト

コロナ禍の岡山のまちを元気にしようと、岡山市内10カ所でサプライズ花火を一齐打ち上げしました。密を避けるため告知は行わず、約1万1千発の花火が夜空を彩り、市民に夢や希望を届けました。地元企業82社からの協賛もいただき、翌日には山陽新聞に掲載されるなど、大きな反響を呼び、岡山青年会議所のブランディングや認知度向上にもつながりました。



2022

JCI Okayama Projects

岡山青年会議所の5年間を振り返る

スパイラルeスポーツ 桃太郎カップ



新桃太郎伝説

岡山青年会議所10周年記念事業として寄贈した初代桃太郎像をリメイクし、岡山桃太郎空港へ新たに寄贈しました。背景には岡山県出身のアーティスト・笹田靖人氏の代表作「龍虎」を用いたラッピングアートを施し、さらにライトアップを設置することで昼と夜で異なる表情を楽しめるようにしました。今では空港を彩るシンボルとして親しまれ、「桃太郎のまち岡山」のブランディングにも繋がっています。



2021

70周年記念事業

創立70周年記念事業として「自転車のまち おかやま推進プロジェクト」の一環で岡山市のシェアサイクル「ももちゃり」に特別色「ももいろ」仕様30台を寄贈する式典を開催。以来、まちの魅力を発信しながら市民や観光客に広く親しまれています。また「池田動物園活性化プロジェクト」では、新たな仲間としてアミメキリンのサンタロウを迎え、地域の子供たちに夢と笑顔を届ける存在となりました。



池田動物園活性化プロジェクト



うらじゃマンホール 贈呈式

2020



2025 09.17

「創立75周年 記念式典・祝賀会」 開催報告

2025年9月17日(水)、岡山ブラザホテルにて「創立75周年記念式典・祝賀会」を開催いたしました。式典では、これまでの歴史を振り返るとともに、卒業生の皆さまが紡いでこられた熱い想いと行動を、私たち現役メンバーが確かに受け継いでいることを再認識しました。まちづくり・ひとづくり・未来づくりへの挑戦が今の活動につながっていることを改めて感じ、歩みを新たにす一日となりました。



第30回 うらじゃ2025 輪 こころ晴れ晴れおかやま魂

輪が広がり、未来へ繋ぐ — 40万人が熱狂した「うらじゃ」



節目の第30回を迎える「うらじゃ」 おかやまを盛り上げるために

ひとりでも多くの人々が魅せられ、興味が湧き、参加したくなる。
歴史に触れ、未来に繋がるまっりの開催に向けて

第30回うらじゃ実行委員会 実行委員長 高見宣哉



ACTIVITY REPORT

活動報告 2025

SEPTEMBER

9月23日(火・祝)、下石井公園にて「おかやまのまち政策アイデア甲子園2025」を開催いたしました。本事業は、大学生が主体となり、おかやまの将来を考えた政策アイデアを発表することで、青少年の社会への関心と主体性を高めることを目的とし、学生による政策アイデア発表やブース展示、主催者アドバイザーによる講演、さらにはマルシェやステージ企画など、多彩な内容で構成されました。コンテストステージでは、各学校で学生たちが真剣に議論を重ね、協力して作り上げた政策アイデアが披露されました。地域の課題を自らの問題として捉え、解決に向けた具体的な提案を形にする姿勢からは、若者ならではの柔軟な発想と真摯な探究心が伝わって

きました。日々の学校生活や地域活動の中で培った経験を活かし、未来への可能性を感じさせるアイデアを発表してくれました。何より、社会を少しでも良くしたいという学生の純粋な思いや情熱は、会場にいた私たちにも大きな感動を与えてくれました。本事業を通じて、学生たちは「自分たちの声を社会に届ける」という経験を積み、私たちもまたその姿勢から多くの学びを得ることができました。今後このような取り組みを継続し、若者が情熱を持って地域や社会に関わるきっかけを提供していきたいと考えています。



「おかやまのまち政策アイデア甲子園2025」



当日の様子は
こちらより
ご覧頂けます。



きづく!たのしむ!できる!観光体験ひろば2025

9月13日(土)、岡山市内の小学5・6年生70名と、車椅子を利用する20歳未満の子供たち30名を対象に「きづく!たのしむ!できる!観光体験ひろば2025」を開催いたしました。集合場所のおかやま旭川遊覧船クルーズを出発し、岡山城や石山公園周辺で、観光や職業体験を楽しむ一日となりました。本事業は、子供たちがハンディキャップの有無に関わらず協力し、「できる!」を発見することを目的としています。また、岡山青年会議所メンバーも、子供たちの体験の機会に差がある現状を知り、社会課題への関心を深めることを目指しました。当日は子供たちが互いに声をかけながら課題を乗り越える姿が印象的でした。岡山城では江戸時代の駕籠を使



った天守閣登城体験を楽しみ、旭川遊覧船クルーズでは、これまで棧橋の幅が狭く乗船が困難だった車いす利用者のため、航空機機内用の車いす2台を寄贈し、座ったまま安全に棧橋を渡って乗船できるよう整備しました。さらに、障害者施設協力の職業体験や藍染木材加工体験のものづくり体験も行い、子供たちはさまざまな体験に挑戦しながら、交流を深めました。参加した子供たちからは「協力すればできることが増えると実感した」「友達の大切さをあらためて感じた」といった声が寄せられ、互いを思いやり理解し合う心を育む一日となりました。これからも子供たちの成長を支え、地域社会に貢献する活動を続けてまいります。